



平成23年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年8月6日

上場会社名 株式会社日本一ソフトウェア 上場取引所 JQ
 コード番号 3851 URL <http://www.nippon1.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 北角浩一 (TEL) 058-371-7275
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 世古哲久 配当支払開始予定日 —
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月10日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第1四半期の連結業績（平成22年4月1日～平成22年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第1四半期	293	△40.6	△15	—	△32	—	△48	—
22年3月期第1四半期	494	75.1	12	—	20	—	12	—

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
23年3月期第1四半期	△2,332	77	—	—
22年3月期第1四半期	584	95	582	20

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円	銭
23年3月期第1四半期	1,683		692		41.1		33,035	53
22年3月期	2,020		764		37.8		36,562	65

(参考) 自己資本 23年3月期第1四半期 692百万円 22年3月期 764百万円

2. 配当の状況

	年間配当金							
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
22年3月期	—	—	0	00	—	—	200	00
23年3月期	—	—	—	—	—	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	0	00	—	—	200	00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：無

3. 平成23年3月期の連結業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、第2四半期（累計）は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期（累計）	686	△29.4	△125	—	△128	—	△138	—	△6,606	35
通期	2,086	△1.7	41	—	34	—	16	—	813	18

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：無

4. その他（詳細は、[添付資料] 4 ページ「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動：無

新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：有

② ①以外の変更：無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

23年3月期1Q	21,252株	22年3月期	21,192株
23年3月期1Q	290株	22年3月期	290株
23年3月期1Q	20,930株	22年3月期1Q	20,897株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が本資料公表日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、4ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	4
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の景気対策の効果や海外需要の持ち直し等により、緩やかな回復基調となりました。しかしながら、欧州を中心とする財政危機問題の広がりから世界的な景気の下振れ懸念が再燃したこと等により、引き続き個人消費が低迷するなど、予断を許さない状況にあります。

当社が属しておりますゲーム業界におきましても、消費低迷の影響によって、厳しい事業環境が続いております。

コンシューマゲーム業界におきましては、ハードウェアの買い替え需要が一段落し市場が低迷するなか、ソフトウェア市場においては各社の売上本数が堅調に推移し、総市場規模は前年同期比で微増いたしました。

モバイルゲーム業界におきましては、SNSのオープン化が進むとともに、XperiaやiPhone4といったスマートフォンが人気を集め、急速に普及したことで、ダウンロードによるコンテンツの購入・利用という課金モデルがより一般的になってまいりました。一方で、パッケージソフト形式でゲームを販売してきた従来のゲームメーカーもスマートフォン市場に参入し、競争は更に激しさを増しております。

アミューズメント業界におきましては、家庭用ゲーム機・携帯電話等の情報端末の高機能化、消費低迷等の影響により、業界全体の集客力が低下する厳しい状況が続いております。

このような状況のなかで、当社グループにおきましては、コンシューマ事業では、国内において1タイトル、海外において他社ライセンス商品を含む5タイトルを発売いたしました。モバイル事業におきましては、総合ゲームサイト及びアドベンチャーゲーム専用ゲームサイトの運営を継続するとともに、急速に拡大するスマートフォン市場に対応すべく開発体制を整えてまいりました。アミューズメント事業におきましては、アミューズメント施設の運営等を行い、イベントの開催等により集客率の向上を図ってまいりました。その他事業におきましては、オンラインショップの運営、グッズの製作・販売等を行うとともに、当社コンテンツのマルチユースを図るため、異業種とのコラボレーション戦略を進めてまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高293,971千円（前年同期比40.6%減）、営業損失15,848千円（前年同期は12,055千円の営業利益）、経常損失32,592千円（前年同期は20,857千円の経常利益）、四半期純損失48,825千円（前年同期は12,223千円の四半期純利益）となりました。

セグメント別の業績は、以下の通りです。

(コンシューマ事業)

コンシューマ事業におきましては、国内外合わせ全6タイトルの発売を行いました。

国内市場においては、前期にダウンロード形式で販売し好評を得たアドベンチャーゲーム『ディスガイア インフィニット』（PlayStation Portable専用ソフト）のUMD版を発売し、当社の主力タイトルである『魔界戦記ディスガイア』シリーズのブランド価値の向上を図りました。

海外市場においては、当社および他社ライセンスソフトのローカライズ版の販売に注力してまいりました。北米市場ではPlayStation Portable向けに『What Did I Do to Deserve This, My Lord!? 2』（邦題：『勇者のくせになまいきだ。2』）、『Disgaea Infinite』（邦題：『ディスガイア インフィニット』）、PlayStation3向けに『Trinity Universe』（邦題：『トリニティ ユニバース』）、Wii向けに『Viral Survival』（邦題：『peakvox escape virus』）の全4タイトルを発売し、欧州市場では『Sakura Wars:So Long, My Love』（邦題：『サクラ大戦V～さらば愛しき人よ～』、PlayStation2用・Wii用ソフト）等の4タイトル（うち3タイトルは北米市場での発売タイトルと重複）を発売することで、海外市場における当社グループのシェア拡大に努めてまいりました。

その結果、当事業における当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高269,754千円、営業利益32,024千円となりました。

(モバイル事業)

モバイル事業におきましては、前期に引き続き、総合ゲームサイト「日本一GAMES」、およびアドベンチャーゲーム専用サイト「日本一アドベンチャー」を運営し、携帯電話向けのゲームアプリ、着うた等のデジタルコンテンツを配信してまいりました。また、XperiaやiPhone4等のスマートフォン、iPad等の高機能端末の発売によって急速に変化している市場への対応として、当社の主力コンテンツのゲームアプリ化や電子書籍化を進め、新しいプラットフォームを積極的に活用すべく開発体制を整えてまいりました。

その結果、当事業における当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高8,054千円、営業利益3,791千円となりました。

(アミューズメント事業)

アミューズメント事業におきましては、アミューズメント施設の運営を中心に事業を展開してまいりました。具体的には、運営する2店舗において、集客率向上のためのイベント開催や広告配布等を展開することで、認知度の向上と市

況の回復に備えた収益性の改善を図ってまいりました。

その結果、当事業における当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高9,811千円、営業損失2,852千円となりました。

(その他事業)

その他事業におきましては、国内外におけるオンラインショップの運営、グッズ販売等を行ってまいりました。国内市場においては、『魔界戦記ディスガイア』シリーズをはじめとする当社ライセンス商品に関連したグッズの製作・販売を行い、海外市場においては、国内でも人気を博したアニメ『Toradora!』（邦題：『とらドラ!』）、『PERSONA -trinity soul-』（邦題：『ペルソナ ～トリニティ・ソウル～』）の2タイトルについてDVDのリリースを開始し、ゲーム販売に並ぶ新たな収益源の創出に努めてまいりました。

また、シール付き菓子『ビックリマン』の新シリーズ「漢熟霸王」のキャラクターデザインにおいて『魔界戦記ディスガイア』とのコラボレーションを行うなど、異業種との共同企画を積極的に推し進めることで、当社コンテンツのマルチユースを図ってまいりました。

その結果、当事業における当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高6,351千円、営業損失1,654千円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は1,683,463千円となり、前連結会計年度末に比べ336,881千円の減少となりました。

主な流動資産の増減は、現金及び預金の減少（前連結会計年度末に比べ50,749千円の減少）、受取手形及び売掛金の減少（前連結会計年度末に比べ、318,779千円の減少）等によるものであります。

主な固定資産の増減は、投資有価証券の減少（前連結会計年度末に比べ14,711千円の減少）等によるものであります。

(負債の部)

当第1四半期連結会計期間末における負債は990,972千円となり、前連結会計年度末に比べ265,139千円の減少となりました。

主な流動負債の増減は、買掛金の減少（前連結会計年度末に比べ80,771千円の減少）、短期借入金の減少（前連結会計年度末に比べ90,400千円の減少）等によるものであります。

主な固定負債の増減は、長期借入金の減少（前連結会計年度末に比べ41,002千円の減少）等によるものであります。

(純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は692,490千円となり、前連結会計年度末に比べ71,741千円の減少となりました。

主な純資産の増減は、四半期純損失による減少等によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は475,342千円となり、前連結会計年度末に比べ50,749千円の減少となりました。

当第1四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は100,435千円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失49,724千円、売上債権の減少額312,991千円、たな卸資産の増加額73,011千円、仕入債務の減少額77,004千円、法人税等の支払額14,498千円等があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は8,460千円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出8,085千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は133,482千円となりました。これは主に、短期借入金の純減少額90,400千円、長期借入金の返済による支出41,002千円等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期会計期間の業績は概ね当初の予想どおりに推移しており、平成22年3月期決算短信（平成22年5月14日付公表）において発表いたしました業績予想からの変更はありません。

平成23年3月期の連結業績予想は以下のとおりであります。

売上高	2,086,135千円（前期比1.7%減）
営業利益	41,364千円（前期は235,291千円の営業損失）
経常利益	34,584千円（前期は232,780千円の経常損失）
当期純利益	16,997千円（前期は332,880千円の当期純損失）

業績予想に関する留意事項

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料公表日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。今後の経済情勢・市場の変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績は業績予想と大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

1. 簡便な会計処理

定率法を採用している固定資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

2. 特有の会計処理の概要

税金費用については、海外連結子会社については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

資産除去債務に関する会計基準の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

なお、この変更に伴う損益に与える影響はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	475,342	526,092
受取手形及び売掛金	141,524	460,304
商品及び製品	58,114	28,072
仕掛品	104,114	83,568
繰延税金資産	40,169	42,240
その他	29,763	24,268
流動資産合計	849,030	1,164,546
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	384,808	390,246
機械装置及び運搬具（純額）	2,802	3,247
土地	172,746	172,746
その他（純額）	46,805	43,202
有形固定資産合計	607,162	609,443
無形固定資産		
のれん	18,353	20,770
その他	21,835	23,689
無形固定資産合計	40,188	44,459
投資その他の資産		
投資有価証券	161,752	176,463
その他	25,329	43,231
貸倒引当金	—	△17,800
投資その他の資産合計	187,082	201,894
固定資産合計	834,433	855,797
資産合計	1,683,463	2,020,344

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	51,409	132,180
短期借入金	499,600	590,000
1年内返済予定の長期借入金	40,008	40,008
未払金	57,327	64,639
未払法人税等	3,036	18,197
賞与引当金	14,203	26,770
売上値引引当金	71,930	84,912
その他	33,760	39,595
流動負債合計	771,275	996,305
固定負債		
長期借入金	212,422	253,424
退職給付引当金	7,029	5,701
その他	245	681
固定負債合計	219,696	259,806
負債合計	990,972	1,256,112
純資産の部		
株主資本		
資本金	241,910	240,860
資本剰余金	231,910	230,860
利益剰余金	314,621	367,615
自己株式	△16,870	△16,870
株主資本合計	771,570	822,464
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△9,626	△4,099
為替換算調整勘定	△69,453	△54,132
評価・換算差額等合計	△79,079	△58,231
純資産合計	692,490	764,232
負債純資産合計	1,683,463	2,020,344

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
売上高	494,998	293,971
売上原価	286,956	126,853
売上総利益	208,042	167,117
販売費及び一般管理費	195,986	182,966
営業利益又は営業損失(△)	12,055	△15,848
営業外収益		
受取利息	1,218	486
受取配当金	237	378
為替差益	10,267	—
その他	433	1,672
営業外収益合計	12,156	2,537
営業外費用		
支払利息	2,820	2,211
為替差損	—	16,736
その他	534	333
営業外費用合計	3,354	19,280
経常利益又は経常損失(△)	20,857	△32,592
特別利益		
債務免除益	—	3,990
特別利益合計	—	3,990
特別損失		
開発中止損失	—	21,122
特別損失合計	—	21,122
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	20,857	△49,724
法人税、住民税及び事業税	8,633	△899
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△48,825
四半期純利益又は四半期純損失(△)	12,223	△48,825

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	20,857	△49,724
減価償却費	17,276	12,745
のれん償却額	1,731	2,417
賞与引当金の増減額(△は減少)	△4,018	△12,391
売上値引引当金の増減額(△は減少)	8,523	△9,144
退職給付引当金の増減額(△は減少)	597	1,327
受取利息及び受取配当金	△1,455	△864
支払利息	2,820	2,211
為替差損益(△は益)	△3,834	3,435
債務免除益	—	△3,990
開発中止損失	—	21,122
売上債権の増減額(△は増加)	256,912	312,991
たな卸資産の増減額(△は増加)	△80,552	△73,011
仕入債務の増減額(△は減少)	△9,032	△77,004
その他	22,507	△14,000
小計	232,331	116,117
利息及び配当金の受取額	1,942	1,080
利息の支払額	△2,945	△2,264
法人税等の支払額	△53,062	△14,498
営業活動によるキャッシュ・フロー	178,267	100,435
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△15,773	△8,085
有形固定資産の売却による収入	—	50
無形固定資産の取得による支出	△8,127	△813
投資有価証券の取得による支出	△61,242	△1,798
投資有価証券の売却による収入	41,936	2,200
その他	△5,291	△12
投資活動によるキャッシュ・フロー	△48,499	△8,460
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△85,000	△90,400
長期借入金の返済による支出	△10,002	△41,002
株式の発行による収入	—	2,100
自己株式の取得による支出	△2,522	—
配当金の支払額	△4,179	△4,180
財務活動によるキャッシュ・フロー	△101,703	△133,482
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5,584	△9,242
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	22,478	△50,749
現金及び現金同等物の期首残高	472,801	526,092
現金及び現金同等物の四半期末残高	495,280	475,342

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

	コンシューマ事業 (千円)	モバイル事業 (千円)	アミューズメント事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	466,597	12,399	11,154	4,845	494,998	—	494,998
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	466,597	12,399	11,154	4,845	494,998	—	494,998
営業利益又は営業損失(△)	69,348	△5,097	△9,370	3,148	58,029	(45,974)	12,055

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、製品の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2. 各区分に属する主要な製品

事業区分	主要製品
コンシューマ事業	PlayStation専用ゲームソフト、PlayStation2専用ゲームソフト、PlayStationPortable専用ゲームソフト、PlayStation3専用ゲームソフト、ニンテンドーDS専用ゲームソフト、Wii専用ゲームソフト
モバイル事業	携帯電話用コンテンツ
アミューズメント事業	業務用アーケードゲーム機器、アミューズメント施設運営
その他事業	関連グッズ、関連攻略本

〔所在地別セグメント情報〕

前第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

	日本(千円)	北米(千円)	計(千円)	消去又は全社 (千円)	連結(千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	300,074	194,924	494,998	—	494,998
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	9,314	690	10,005	(10,005)	—
計	309,388	195,615	505,003	(10,005)	494,998
営業利益	44,641	13,388	58,029	(45,974)	12,055

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

北米・・・米国

〔海外売上高〕

前第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

	北米	欧州	計
I 海外売上高（千円）	164,468	30,455	194,924
II 連結売上高（千円）	—	—	494,998
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（％）	33.2	6.2	39.4

- （注） 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。
2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域
北米・・・米国
欧州・・・イギリス、フランス
3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

〔セグメント情報〕

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、コンシューマ事業、モバイル事業、アミューズメント事業、その他事業を営んでおり、取り扱う製品・サービスによって、当社及び当社の連結子会社を設置し、国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、製品・サービスを基礎とした事業別のセグメントから構成されており、「コンシューマ事業」、「モバイル事業」、「アミューズメント事業」及び「その他事業」の4つを報告セグメントとしております。なお、各報告セグメントに含まれる主要品目は、以下のとおりであります。

事業区分	主要製品
コンシューマ事業	PlayStation専用ゲームソフト、PlayStation2専用ゲームソフト、PlayStationPortable専用ゲームソフト、PlayStation3専用ゲームソフト、ニンテンドーDS専用ゲームソフト、Wii専用ゲームソフト
モバイル事業	携帯電話用コンテンツ
アミューズメント事業	業務用アーケードゲーム機器、アミューズメント施設運営
その他事業	関連グッズ、関連攻略本

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年6月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額
	コンシューマ事業	モバイル事業	アミューズメント事業	その他事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	269,754	8,054	9,811	6,351	293,971	—	293,971
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	269,754	8,054	9,811	6,351	293,971	—	293,971
セグメント利益又はセグメント損失（△）	32,024	3,791	△2,852	△1,654	31,308	(47,157)	△15,848

(注) 1. セグメント利益の調整額47,157千円は当社管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。